

洲本市のセミ類について

堀 田 久

淡路島産のセミ類についてはいくつかの記録があり、筆者も本誌12号で報告しているが、今後の調査のために、これまでの知見を加えて洲本市内のセミ類について述べておきたいと思う。

セ ミ 科 Cicadidae

1. クマゼミ *Cryptotympana japonensis* Kato

7月中旬から8月下旬にかけて各地に見られるが、個体数にはかなり変化がある。例えば安乎町北谷の筆者の自宅付近では最近少なくなったが、逆に以前よりも個体数が増加していると思われる地域もある。なお、本種はビワやセンダンの木を好み、特にセンダンの木には何十頭も群がっていることが多い。また、本種の鳴く時間帯は午前中であり、それも8時から11時が主であって、午後に鳴き声を聞いたことはない。

2. アブラゼミ *Craopsaltria nigrofuscata* Motschulsky

7月上旬より9月上旬にかけて見られる。最も普通の種で各地に多産するが、山地よりも平地に多いようである。

3. ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi* Fabricius

7月上旬から8月下旬に見られ、夏のセミとしては最も早く出現する。各地に普通で平地にも山地にも多産する。

4. ヒグラシ *Tanna japonensis* Distant

7月上旬から8月下旬に出現する。平地では見られないが山地には普通で、特に先山には個体数が多い。安乎町や中川原町の低山地では、少ないながら鳴き声を聞くことができる。夕方によく鳴くところからヒグラシと名付けられているが、筆者が先山の西茶屋で何度か観察した結果、夕方よりも早朝に最もよく鳴き、7月下旬から8月上旬には、早いものでは5時前から鳴き始めることを確認している。

5. ハルゼミ *Terpnosia vacua* Olivier

4月下旬から6月中旬にかけて現れるが、平地よりも山地に多く、年によって個体数にかなり差があるようである。なお、安乎町や中川原町では、近年個体数が減少しているように思われる。

6. ヒメハルゼミ *Euterpnosia chibensis* Matsumura

7月上旬から8月上旬に出現し、洲本市内では三熊山と先山で確認されている。1975年7月21日、筆者は当時勤務していた洲本市立青雲中学校の生物部員10名と、先山東茶屋

の横で本種の合唱を聞き生息を確認した。そして、1976年7月22日には同校の生物部員が、東茶屋から加茂の方へ少し下がったあたり（標高約400メートル）の原生林で、雄を1頭採集した。筆者もその日同じ場所で、木の枝に着いていた脱皮殻を採集している。合唱から推察すると、淡路島内でもっとも多産する諭鶴羽山よりは少ないが、三態山よりは多いようであった。その後も数回同じ場所で本種の合唱を聞いているが、個体数はあまり多くないようである。

7. ツクツクボウシ *Meimuna opalifera* Walker

8月上旬から9月中旬にかけて出現し、各地に普通で平地にも山地にも多産する。人家の周辺にも多く、洲本市街地でもかなりの個体数が認められる。

8. ミンミンゼミ *Oncotympana maculaticollis* Motschulsky

7月中旬から9月上旬にかけて出現し、山地には普通であるが、個体数はあまり多くない。安乎町の北谷では、近年鳴き声を聞くことが多くなった。

9. チッチゼミ *Melampsalta radiator* Uhler

筆者は1940年代に、安乎町平安浦で本種の死骸を拾ったことがあるが、現在その標本は残っていないし、その後は生息を確認していない。

洲本市安乎町でクロコノマチョウを採集

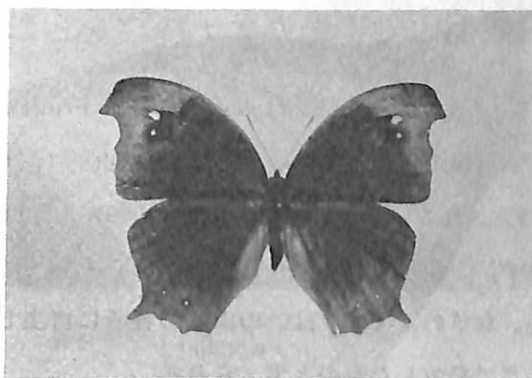
筆者は昨年夏、自宅の洗面所の窓ガラスに静止していたクロコノマチョウ *Melanitis phedima oitensis* Matsumura を採集したので、報告しておきたい。

採集年月日 1989年8月3日（夏型 1♀）

採集地 洲本市安乎町北谷

なお、本種はこれまでに淡路島では、洲本市相川、洲本市物部、南淡町灘大川、南淡町大日ダム、諭鶴羽山、五色町広石から記録されていた。

（堀田 久）



クロコノマチョウ 夏型♀
(洲本市安乎町北谷産)